

教育厚生

不況も要因か 昨年より増加した滞納額



教育厚生常任委員長
宮地 葉子

●21年度決算

当委員会は8つの特別会計を含めた決算審議でした。

各種納入の滞納額が、昨年度より増加している点が問題となりました。

主に保育料、給食費、国保税、介護保険税、宮川奨学資金の返済等々の滞納額が増えています。不景気でもあり、払いたくても払えない家庭が増えている事も事実ですが、訳あってやむをえず払えない家庭に対して減免制度や分割納入等の救済方法もあります。まずは役場の窓口へ相談をして欲しいとのことですが、利用者には余り多くないとのこと。委員会としては滞納金額が少ない内に納入してもらえよう、徴収には今以上に努力と知恵を働かすことを要請しました。

●特別会計決算から

★住宅新築資金貸付事業

現在この事業は回収のみですが、滞納額が約8千955万円もあり毎年問題になっています。きめ細かな徴収と努力を要請しました。

★国民健康保険事業

病気の予防をすることで医療費を少なくする努力も必要ですが、特定検診の検診率が35・3%と低い事が問題となりました。特に若い人の検診率が低いとのことですが、この事業費では約398万円の不用額が出ました。

●補正予算

南部保育所の廊下の張り替え予算、734万円は、県の補助金300万円を使った工事です。委員会では、なるべく地元業者を使って欲しいと意見が出されました。

総務

過疎地域自立促進計画を策定



総務常任委員長
坂本 あや

昨年まで12月に提案されていた水道会計以外の決算が、今年から9月議会で提案されることになりました。

総務関係では、一般会計と給与等集中処理特別会計の2議案でした。

◆一般会計では、町税の不能欠損が670万円と高額となりました。破産や死亡など取れないものは整理すべきだとの監査委員の指摘を受け実施したものです。しかし中には時効となつて例もあり、今後は、時効中断措置をとるよう努力をすることを求めました。また、軽自動車税は自動車のエコカー減税が行われたので、800万円ほど減額になりました。

今決算では、21年度の事業を22年度に繰り越して行うものが約10億

円ありました。多くの大型事業（中学校の建替え・小学校の耐震・消防署の移転等）があり、町の借入金となる起債残高は99億円となります。優良な借入れ（借りたお金の70%を交付税として国がくれる）を使う等して対応をしています。委員からは借金はすべきではないとの意見もありましたが、慎重な資金運用が求められると指摘がありました。

◆給与等集中処理特別会計は、水道会計の職員4名を除き特別職4名を含む、218名の給与17億2700万円の給与の一括処理をしたものです。

◆その他、携帯電話の不感地域を解消するための議案、黒潮町全域が過疎地域の指定を受けたので、過疎計画を立てる議案等が提案されましたが、全て可決しました。